

協伸商会穀物レポート [KKR] Vol. 062

(2023/24年度 USDA米国農務省 9月12日発表)

[ハイライト]

① 世界穀物生産は乾燥等によりEU/豪州等での減産はあるが全体的には堅調、需給緩和の為市場価格は低迷

主要穀物の作況は、北半球は冬小麦の収穫が終了し概ね順調、コーン/大豆は成熟期を迎え収量がほぼ確定、また南米は22/23年度収穫期を迎え順調。品目別特徴では、小麦は昨年豊作だったロシア(92⇒85)/豪州(40⇒26百万ト)の減産はあるもののインド/EU等の増産で前年上回る見通し。コーンは米国/EUの増産で前年比増、大豆は米国減少もBRA/ARG が好調で、前年比9%増の4億トを初めてを超える見通し。しかし、需給関係がゆるみ市場価格はコメを除き2021年レベルまで下落。

② ブラジルが大豆に加えコーン輸出も米国を押さえ世界一に、また「南北鉄道」インフラ整備も完成！

BRAの中国需要に支えられた穀物生産/輸出拡大が順調であり、大豆は163/97百万ト、コーンは129 /55百万トと米国の113/49百万ト、384/52百万ト比の輸出合計ではBRA152 vs 米国101百万トと5千万トの差をつけ圧勝する見通しである。また、今年6月には40億レアル投資した北部イタキ港と南部サントス港を結ぶ「南北鉄道」がようやく完成し、主産地であるマトグロッソ州等から南北の主要港に連結する従来のトラック輸送に替わる穀物輸送インフラが更なる競争力強化に…。

③ ロシア黒海穀物イニシアチブ離脱と米国ミシシッピリバー/パナマ運河航行制限 による供給/物流不安が顕在化

7月17日、ロシアの黒海穀物回廊合意離脱によりUKRからの黒海経由穀物輸出は途絶した状態であるが、一部 ①ルーマニアルート（コンスタンツァ港）②バルト海ルート（グダニスク港）経由の輸出が試みられている。しかし昨年の黒海経由32百万トには遠く及ばず苦戦している。また、米国では降雨不足による河川航行制限による物流停滞が深刻でありバージ運賃は前年比42%高の23ドル/トまで高騰、加えてパナマ運河も渇水の為喫水制限が出され米国産穀物輸出にとって逆風となっている。

1. 世界穀物需給の概要

① 生産量：	2,802百万ト（前年比1.9%	増 ↑、前月比0.3%	減 ↓
② 消費量：	2,804百万ト（前年比1.0%	増 ↑、前月比0.1%	減 ↓
③ 貿易量：	495百万ト（前年比0.2%	減 ↓、前月比0.6%	減 ↓

2. 小 麦

① 生産量：	787百万ト（前年比0.4%	減 ↓、前月比0.8%	減 ↓
② 消費量：	796百万ト（前年比0.0%	→、前月比0.0%	→
③ 輸出量：	207百万ト（前年比5.7%	減 ↓、前月比1.0%	減 ↓
⑤ 在庫量：	259百万ト（前年比3.2%	減 ↓、前月比2.6%	減 ↓） /（在庫率 32%）うち中国135百万ト、占有率52%
④ 価 格：	\$5.68/Bu（前年\$7.93/Bu / 前月\$6.33/Bu）と前月比\$0.65 下落。		
⑤ 概 況：	世界生産量は乾燥の為、前月より豪州▼3/カナダ▼2百万ト下方修正され前年比でも微減となった。消費量は飼料用増の為前年並み、輸出量は主産地生産減もあり前年比約1千万ト減少。価格は輸出量減/需給緩和等から5ドル台半ばまで大きく下落。		

3. とうもろこし

① 生産量：	1,214百万ト（前年比5.1%	増 ↑、前月比0.1%	増 ↑
② 消費量：	1,200百万ト（前年比2.8%	増 ↑、前月比0.0%	→
③ 輸出量：	196百万ト（前年比8.0%	増 ↑、前月比0.0%	→
④ 在庫量：	314百万ト（前年比4.8%	増 ↑、前月比0.9%	増 ↑） /（在庫率 26%）うち中国202百万ト、占有率64%
⑤ 価 格：	\$4.65/Bu（前年\$6.69/Bu / 前月\$4.84/Bu）と前月比\$0.19 下落。		
⑥ 概 況：	世界生産量は前月比EUが減産となったが主産地の米国収穫面積引き上げ/BRAの収穫進展等から全体的には好調で前年比6千万ト増の12億トを超える見通し。輸出量も前年比約2千万ト増加し2億トに近づく予想。在庫量は生産が消費量を上回る為前年比約5%増の3億トを超える見通し。価格は世界的な増産と期末在庫積増の為軟化傾向続き年初から約2ドル安となった。		

4. 大豆

① 生産量：	401百万ト（前年比8.4%	増 ↑、前月比0.4%	減 ↓
② 消費量：	383百万ト（前年比5.3%	増 ↑、前月比0.3%	減 ↓
③ 輸出量：	168百万ト（前年比1.0%	減 ↓、前月比0.2%	減 ↓
④ 在庫量：	119百万ト（前年比15.8%	増 ↑、前月比0.1%	減 ↓） /（在庫率 31%）うちBRA39/ARG25百万ト
⑤ 価 格：	\$13.56/Bu（前年\$15.11/Bu / 前月\$14.44/Bu）と前月比\$0.88 下落。		
⑥ 概 況：	世界生産量は、米国が前月より微減したがBRAは好調であり前年比大幅増の4億トを超える見通しは変わらず。消費量は中国が増加、輸入量が遂に1億トの大口にのる見通し。ただ生産が需要を大きく上回り在庫大幅増の為価格は1ドル近く下落した。		

以上

世界の穀物・大豆等の需給

2023年9月12日
米国農務省発表： 単位100万トン

主要穀物世界の需給							
			生産量	総供給量	貿易量	総使用量	期末在庫量
全穀物	2020/21		2,799	3,593	514	2,800	793
	2021/22		2,750	3,544	496	2,776	768
	2022/23	8月	2,812	3,580	498	2,806	774
	2023/24	9月	2,802	3,569	495	2,804	766
小麦	2020/21		781	1,065	203	792	273
	2021/22		791	1,063	220	796	267
	2022/23	8月	793	1,062	209	796	266
	2023/24	9月	787	1,054	207	796	259
粗粒穀物 (とうもろこし等) 注1	2020/21		1,504	1,827	254	1,489	338
	2021/22		1,446	1,784	222	1,456	328
	2022/23	8月	1,497	1,823	236	1,487	337
	2023/24	9月	1,497	1,825	235	1,485	340
米	2020/21		514	701	57	519	182
	2021/22		514	696	54	524	172
	2022/23	8月	521	695	53	523	172
	2023/24	9月	518	690	52	523	168
大豆	2020/21		360	460	154	361	99
	2021/22		370	469	170	366	103
	2022/23	8月	403	506	169	384	122
	2023/24	9月	401	504	168	383	122

世界のとうもろこし需給							
		期首在庫	生産量	輸入量	国内計	輸出量	期末在庫量
世界計	8月	297.92	1,213.50	187.11	1,200.37	196.19	311.05
	9月	299.47	1,214.29	187.12	1,199.77	196.19	313.99
アメリカ	8月	37.00	383.83	0.64	313.45	52.07	55.94
	9月	36.87	384.42	0.64	313.45	52.07	56.40
アルゼンチン	8月	1.51	54.00	0.01	13.50	40.50	1.51
	9月	1.11	54.00	0.01	13.60	40.50	1.01
ブラジル	8月	8.97	129.00	1.20	77.50	55.00	6.67
	9月	10.27	129.00	1.20	77.50	55.00	7.97
EU	8月	7.19	59.70	24.00	79.50	4.10	7.29
	9月	7.19	59.40	24.00	79.20	4.10	7.29
日本	8月	1.37	0.01	15.50	15.50	0.00	1.39
	9月	1.37	0.01	15.50	15.50	0.00	1.39
中国	8月	205.32	277.00	23.00	304.00	0.02	201.30
	9月	205.82	277.00	23.00	304.00	0.02	201.80
ロシア	8月	0.91	14.60	0.05	10.60	4.20	0.76
	9月	0.91	14.60	0.05	10.60	4.20	0.76
ウクライナ	8月	1.39	27.50	0.00	5.50	19.50	3.89
	9月	1.41	28.00	0.02	5.50	19.50	4.43

世界の大豆需給							
		期首在庫	生産量	輸入量	国内計	輸出量	期末在庫量
世界計	8月	103.09	402.79	166.25	383.94	168.77	119.40
	9月	102.99	401.33	165.97	382.62	168.42	119.25
アメリカ	8月	7.08	114.45	0.82	66.01	49.67	6.67
	9月	6.81	112.84	0.82	65.76	48.72	5.99
アルゼンチン	8月	17.70	48.00	5.70	42.95	4.60	23.85
	9月	17.60	48.00	5.70	41.75	4.60	24.95
ブラジル	8月	32.95	163.00	0.45	59.70	96.50	40.20
	9月	31.95	163.00	0.45	59.70	97.00	38.70
中国	8月	36.77	20.50	99.00	118.00	0.10	38.17
	9月	37.80	20.50	100.00	119.00	0.10	39.20
EU	8月	1.61	3.02	14.10	16.74	0.30	1.68
	9月	1.53	3.05	13.80	16.59	0.30	1.49

世界の小麦需給							
		期首在庫	生産量	輸入量	国内計	輸出量	期末在庫量
世界計	8月	268.31	793.37	207.39	796.07	209.39	265.61
	9月	267.13	787.34	205.62	795.86	207.34	258.61
アメリカ	8月	15.79	47.20	3.54	30.73	19.05	16.75
	9月	15.79	47.20	3.54	30.73	19.05	16.75
アルゼンチン	8月	2.93	17.50	0.01	6.60	12.00	1.84
	9月	3.43	16.50	0.00	6.55	11.50	1.88
オーストラリア	8月	2.84	29.00	0.20	7.70	21.50	2.84
	9月	2.84	26.00	0.20	7.20	19.00	2.84
カナダ	8月	2.54	33.00	0.60	9.10	24.50	2.54
	9月	3.58	31.00	0.60	8.70	23.00	3.48
EU	8月	17.16	135.00	7.00	107.50	38.50	13.16
	9月	16.45	134.00	7.50	108.50	37.50	11.95
中国	8月	138.82	137.00	12.00	152.00	0.90	134.92
	9月	138.82	137.00	11.00	153.00	0.90	132.92
インド	8月	9.50	113.50	0.10	108.10	1.00	14.00
	9月	9.50	113.50	0.10	108.10	1.00	14.00
ロシア	8月	16.14	85.00	0.30	42.00	48.00	11.44
	9月	16.14	85.00	0.30	42.00	49.00	10.44
ウクライナ	8月	1.65	21.00	0.08	8.10	10.50	4.13
	9月	1.33	22.50	0.08	8.80	11.00	4.11

脚注1：粗粒穀物はとうもろこし、マイロ、大麦、燕麦、ライ麦等の計で約80%がとうもろこしである。
脚注2：年度は穀物年度。地域・作物により異なる。例：アメリカ産とうもろこし、大豆：9月～8月。

世界主要国の農業と穀物需給の行方…インド(6)

- ① インドの食料需給状況を一言で言えば「**自給自足**」である。穀物については年度ごと作物ごとに凹凸はあるが**食用/飼料用ともほぼ自給**出来ている。因みに、コメ/小麦の生産量は中国に次いで**世界2位**、コメは世界最大の輸出国でもある。食肉も全体の生産/消費量は人口比から見れば極端に少ないが牛肉は**世界有数の輸出国**でもある。また貴重な蛋白源である牛乳は世界有数の自国生産量を誇る。その結果、インドは世界最大の人口14億人を抱える大国ではあるがその**食料自給率は108%**と、現状は安定した食料自給自足国家と言える。
- ② 問題は、今まで述べてきたようにこの状況が今後どうなるのか…。[表1]はUSDA統計の2000年～23年までの「インドの穀物輸出量推移」である。これを見ると年度毎/品目毎の輸出量推移をみるとかなり**大きな変動**があり、特に小麦は2005～2011 / 2015～2020の計11年間(2000年以降の半分)は**殆ど輸出ゼロ**或いは**5百万トンの前後の輸入**を行っている(KKR6月号参照)。同時にコメもここ数年輸出量2千万トン前後で世界最大の輸出国となっているが、2000年代前半輸出量は僅か100～200万トン程度、また先月は価格高騰により**輸出禁止**を発表した。要するにこの表は、インドの穀物生産は気候変動等により極めてその**収量は大きく揺れ、輸入にぶれる可能性が高い**ことを表している。
- ③ また、インドは食料自給政策の立場から**油糧種子輸入は禁止**しているが、2015年以降経済発展に伴う食生活の多様化/肉食の拡大等から食用油不足が深刻化し、[表2]に見るように植物油輸入量は2000年代400万トン前後から現在は低価格のパーム油を中心にその3倍強の**1,400万トン前後**まで膨れ上がり**世界最大の植物油輸入国**となっている。一方、国内生産量は[表3]の通り大豆/菜種油中心に現在約600万トンと消費量に対し伸びは限定的である。仮にこの輸入量1,400万トンを国内大豆生産に置き換えた場合**7,000万トン**($1,400 \div 0.2$)という膨大な量となり中国の大豆輸入量約1億トンに迫ることになるが、インドは**実質的には食料の自給自足は成り立っていない**とも評価できる。
- ④ [表4]は農水省のインドも含めた世界の用途別穀物消費量と一人当たり食肉消費量の2007年以降推移と2032年予測である。読み取れることは、新興国或いは途上国の経済発展所得向上に伴う肉類消費量増加に伴う**飼料用需要増加**、また総人口の増加を背景に**食用消費も増加**し、トータル穀物需要は2007年21.1⇒32年**31.3億トン**と**25年で約10億トン(48%増)**と大きく増加すること。特に**飼料用は7.6⇒12.2億トン**と食用を上回る4.5億トン増加し、その比率は36⇒39%と全体を牽引していること。その背景は食肉需要が**34.8⇒40.3kg/人/年**と**5.5kg(16%増)**増加し、かつ人口が**68.0⇒86.7億人**と何と19億人近く膨張する予測から成り立っている。インドは宗教的制約があったにしてもこの流れから全く例外ということにはならない。
- ⑤ 「IT大国」インドの2032年人口予測は15.3億人。牛肉消費拡大はスローでも社会構造変化の中で鶏肉消費は勿論、水産物/豚肉消費も拡大が予想され肉類消費量は現在の16kg/人/年⇒30kgも十分に想定される。その場合、食用需要増と併せ配合飼料生産は現在の**4千万トン⇒倍増の8千万トン**！現在の世界穀物海上輸送量は**約7億トン**(小麦2/コーン2/大豆1.6/コメ0.5/大豆粕0.7億トンその他)が2032年**約8億トンと想定**される中で、インドはその時前述の食用油輸入拡大と併せ、**中国と並ぶ穀物輸入大国**となる可能性を秘めている…。(この項、完)

【表1】インドの穀物輸出量

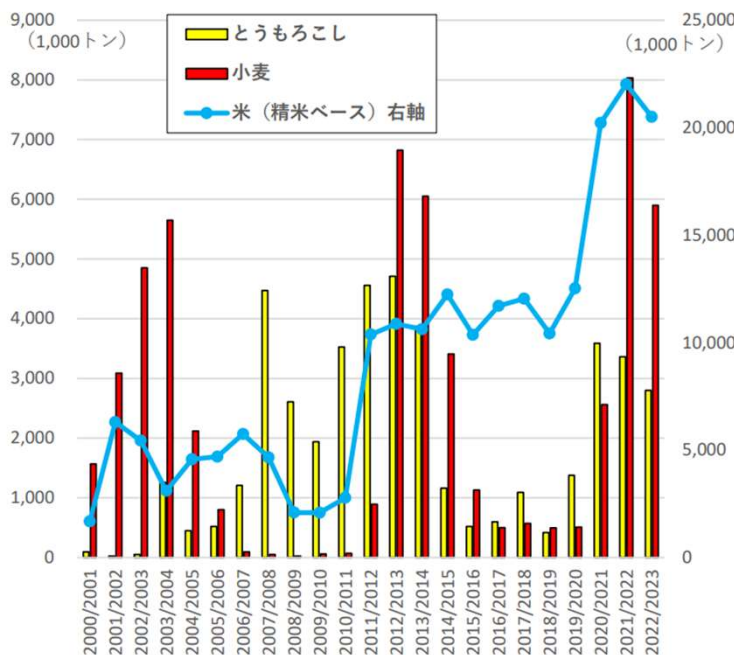
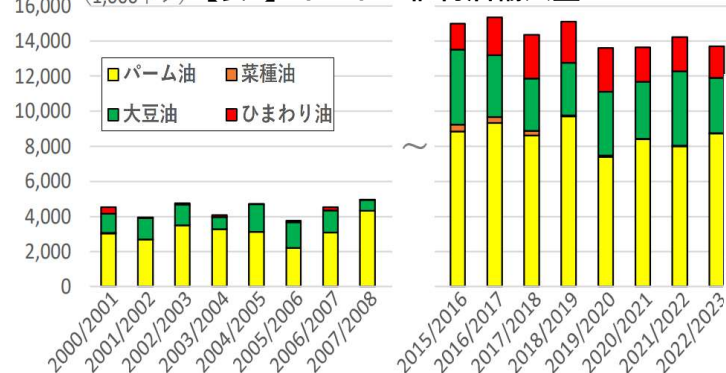
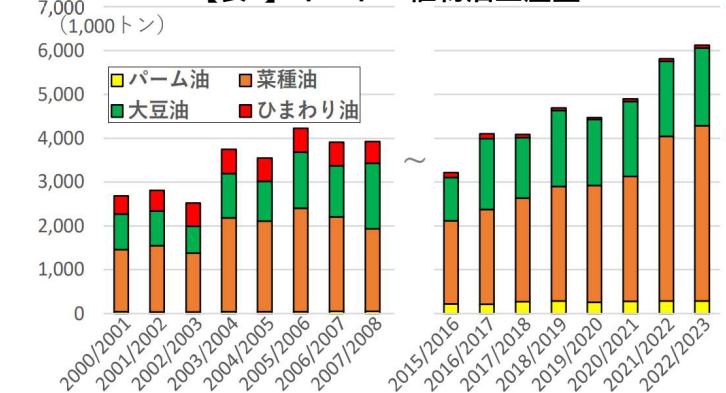


表1・2・3出所: USDA PS&D Online data

【表2】インドの植物油輸入量



【表3】インドの植物油生産量



【表4】用途別穀物消費量と
1人当たり年間肉類消費量(世界合計)

